

2023年12月吉日

「きものの三方よし向上委員会」について

あづまやきものひろば 柴川義英
たかはしきもの工房 高橋和江

拝啓

皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、柴川と高橋は少しでもお客様に寄り添った業界となるための行動がとれないかと思案し、そのための集まりを開催しようと思立ちました。どんどん疲弊するこの業界にあって、今だからこそ本当の意味で手を携え、互いの立場に目を向け寄り添い、この苦しい局面を乗り越えたいという、やむにやまれぬ思いでいっぱいです。

日頃よりご縁を頂いている皆様に、私たちの趣旨をお話しし、まずはご参加いただけないかご連絡した次第です。非力な私たちではありますが、これからのきもの世界が少しでも良きものになることを願っての行動です。

何卒ご一読いただきたく、平にお願い申し上げます。

敬具

記

小売りという立場、またはメーカーとして業界に関わっている中で、改善した方がいいのではないか、もしくは、こういう業界でありたいという気持ちを共有することで、きもの全体の発展に寄与できることがあるのではないか――まずは第一歩としてメーカー、問屋、小売の全ての垣根を取り払い、お客様の立場に立って考えあう意見交換会を開催し、その意に沿う働きかけをしていきたいと考えています。

開催日 2024年1月31日 15:00～18:00

懇親会 18:30～20:30

場 所 WITH YOU ウィズユー

京都府京都市中京区寺町通四条上ル WITH YOUビル3～5F

アクセス 阪急河原町駅より徒歩3分/祇園四条から徒歩10分

会 費 2,000円 懇親会参加の場合、8,000円

「きものの三方よし向上委員会」趣意書

1. この意見交換会はあくまで建設的に(断罪やジャッジではない)それぞれの立場で、改善することでお客様が喜ぶであろう事柄を拾い上げ、その努力を続けていくというものである。
2. 作り手として、流通の立場として、売り手として、目をつぶってきたことや疑問に思っていたことを前向きな思いで語り合う場とする。
3. 目の前の売上に固執することではなく 10 年後を見据え、川上から川下まで一貫して賛同できる事柄に取り組んでいく。
4. 作り手の責任として、たとえば堅牢度、収縮率などの表示方法、物理的性能(ピリング、滑脱など)の向上の方向性を探る。また、流通や小売りの立場を理解し互いの繁栄を願う。
5. 売り手の責任として、提供する商品をよく知る努力を惜しまず、作り手の想いと仕事を知る。ものづくりの立場や流通もことをよく知り、互いに立て合える商売を考え抜く。
6. 流通として、作り手・売り手の双方の利を考え抜き、それがユーザーのためとなることかどうかの問いをし続け、貫く。

まず皆さんが経験し、見聞きした納得のいかなかった事例や「これはどうなんだろう」と思う案件を出し合うところから始まります。

上記の内容が理解しやすいように、当てはまる事例を紹介し、この会が今後果たしたい行動を想定してみます。

.....

●事例

藍染は色落ちすると知ってはいるが、表記がきちんとしていないため買い付ける時に、または販売する時に藍染についての注意をお客様にお話ししないで販売してしまった。加工の段階で気が付いたので善処しクレームにはならなかったが、色移りするとお話ししないまま加工し販売してしまったらクレームにつながる公算は大きい。藍については明確に藍染めだと表記してほしいと思った。問屋を通じて、そのことを伝えてもらったが、メーカーにはなかなか伝わらないことでもどかしい思いをした。

小売りの立場として、どのような表記があったら有難いのか、またメーカーとしては、自社製品の販売時にどのように説明してほしいのかを小売店に要望するなど、互いの理解に努めることが果ては双方の利につながると強く感じた。

.....

他にも作り手、売り手の立場を優先することでユーザーにとって不都合な事例がいくつもあります。これはほんの一例で、たまたま小売り側からメーカーへの要望例ですが、問屋の立場から、メーカーの立場からも思うところは色々あるはずです。

では、具体的にどのような行動を起こし、どのような活動をするのか。そこを皆さんとともに話し合い採択したことを現実化に向けて、会全体の連盟、もしくは各々が行動し、報告を繰り返すことで業界に投じた一石がいつかスタンダードになるというイメージです。

三方すべてが納得いくような良い方向を見出す努力をし、そして次の委員会で結果、もしくは経過をご報告することをし続けたいと考えています。

当然のことながら、実名も出ます。ですがそれは決してやり玉にあげるような討論ではなく、敬意をもって三方よしを模索する視座さえ持てば、必ず相互に理解できるはずです。

何度も言いますが決して断罪するということではなく、徹頭徹尾より良き方法を目指し、手を携え合うことを目的とするものです。

これらを果たすことが結果、お客様満足度を上げ、10年後のより多くのきものファンを創出することになると確信しています。本当の意味で手を携え、この苦しい局面、一枚岩となるため、私たちの手を取ってください。そして非力な私たちを導いてくだされば幸甚です。

以上